

授業method研究会に参加しませんか？

“共同の学び”とはどのような学びなの？
どのような研究会で教師の力は高まるの？

有志によるサークル的授業研究会の開催

学びの共同体とか共同(協同)の学びなどの言葉がようやく一般的になってきました。ただ、そのようなテーマを掲げていても、実際どのような授業を目指すのか、どんな学びがそこにあるのかを、なかなか具現化するのが難しいでしょう。本質が明確化されていない研究は、どうしても形式的で表層的なものになってしまうものです。

また、「授業を変えたい」、共同の学びのある授業を個人的に研究しているが、周りにこの研究についてアドバイスをくれる人がいないという悩みをもっている人はいませんか。

授業研究の後の話し合いのコーディネーターをまかされているけれど、話し合いの方向性にいつも悩んでいる。この授業では、どこにポイントがあるのか、授業を視る目を鍛えたい。

県内・本地区には、意外に『共同の学び』に関心を持って、前々から研究をしてきた教育者が数々います。また、そのような授業改善に興味をもっている教育者もいらっしゃいます。このような方々が集まって、それぞれの教育力・授業力を高めていくサークルです。一人で考え・悩むことより、チームになって研究していきませんか？

研究内容(案) 1回目の研究会で確認していきましょう。

- ① 1カ月に1回程度に、午前3時間程度の会を持ちましょう。
- ② 内容は、お互いに自分の授業などのビデオを持ち寄り、1つ全員で見ながら、授業について意見交換を行う研究会をしましょう。
- ③ それを通して、話し合いをコーディネートする力を高めていきましょう。
- ④ 各自の研究や勤務地での研究・研修に対する悩みの情報交換をしましょう。
- ⑤ その他

研究会主宰者

高橋晋作(現在S市立Y中学校勤務)

T小中学校研究主任(3年)

M中学校研究主任(4年)

MG中学校研究主任(3年)

その間、佐藤学(東京大学大学院教授)氏から授業をアドバイスして頂く機会を得る。神奈川県茅ヶ崎市立浜之郷小学校に1週間滞在し、共同の学びや校内研修の様態を学ぶ。当時校長の大瀬敏昭校長(後に自らの余命を悟り命の授業を行った教育者)から学校改革について指導を受ける。その後、文科省の派遣で14日間アメリカに渡り、幼・小・中・高・大の教育を研究。山形大学江間史明研究室にて、教室の言葉の表出について研究。一方でグループエンカウンター、ライフスキルの指導を行っている。

授業method研究会への参加希望の方は下記までメールをお願いします。締め切りは10月23日(日)です。 shinyatk1616n@yahoo.co.jp